

名古屋城天守閣整備事業の 見直しについて

2018.9.25 江上博之

通告にしたがい、名古屋城天守閣整備事業の見直しを求めて質問します。観光文化交流局長に質問します。

1, 10月文化審議会には諮れないと明言を

【江上議員】第1に、事業は今どのようなになっているのかです。

21日の答弁で、文化庁の「現状変更許可」は、「時間的に大変厳しい」とありました。申請そのものも行っていないことも明らかです。その経過も含めて、7月4日から21日の答弁まで3か月近く市民や議会に何ら報告されていないことが問題です。6月議会は7月4日閉会しました。その後、有識者による「石垣部会」や「天守閣部会」が開催され、河村市長が、7月26日、8月3日、文化庁と話し合い、市長は、「基本計画の見直しに1か月ほどかかる」「9月上旬提出」と報道されていました。

しかし、議会閉会以後、事業が今どうなっているのか、市民にも、議会にも報告されていません。9月議会でも審議の予定はありません。名古屋市は、10月の文化庁の文化審議会で「許可」を得るのは厳しいと答弁していますが、まだ、ありうるかのようなことを言っています。

そこで質問します。3か月近くの間どのようなことが行われたのか明らかにしてください。そして、事務手続き上、10月文化審議会に諮ることはできないことを明言してください。

10月文化審議会は時間的に大変厳しい（観光文化交流局長）

【観光文化交流局長】7月13日に石垣部会、19日に天守閣部会を開催し、基本計画書案をお諮りし、それぞれの部会で頂いたご意見を反映したものを、文化庁に提出する計画でした。しかし、石垣の保存方針について、有識者と認識の一致

を見ていない事を文化庁から指摘されたことにより、基本計画書案の提出を見送りました。その後、石垣の評価や保存対策について再検討し、今後実施する調査に基づき、特に北面の孕み等、緊急性の高いものについては優先的に対応するなど、石垣保存方針を見直しているところでございますが、9月下旬となり、10月の文化審議会は時間的に大変厳しい状況でございます。

石垣保全が最優先とする石垣部会と、石垣の危ない箇所には緊急に対応し、本格的な保全は天守閣木造後にするとする名古屋市で食い違っている

【江上議員】「10月文化審議会に諮ることはできないと明言」を求めましたが、「大変厳しい状況」と繰り返すだけでした。現天守の解体を考える前に、先に天守石垣保全修復を求めましたがこれも回答がありません。では、なぜ、回答しないのか。観光文化交流局長に再質問します。

「石垣の保全方針について、地元有識者と認識の一致をみていないことを文化庁から指摘された」と答弁がありました。名古屋市は、「今後実施する調査に基づき、特に北面孕み等、緊急性の高いものについては優先的に対応」し、天守閣修復後に本格的な石垣の修復を行っていくという二段階の主張です。一方、有識者の皆さんは、一般的には復元建物整備より石垣保全が最優先ということです。新聞で、「市側から有識者を納得させる案は示せなかった」とも報道されています。ここが有識者と名古屋市の「認識の一致をみていない」点と理解していいでしょうか。お答えください。

石垣保全が最優先で、市の石垣保存方針では不十分と石垣部会はしている（観光文化交流局長）

【観光文化交流局長】石垣部会は、「天守台石垣が深刻な状況にあり、石垣の保存について検討し必要な措置を取ることが最優先であり、本市の示した石垣の保存方針では不十分である」と考えていると、認識しております。さらに専門的な助言を得ながら石垣保存方針を検討し、石垣部会と一致した認識で事業を進められるよう努めているところでございます。

2、市みずから現天守を高く評価している。解体しな

い検討を

【江上議員】第2に、現天守閣の価値の高い位置づけから、現天守を解体していいのか。という点です。

7月19日の「天守閣部会」で、文化庁に提出予定の「基本計画案」が提出されました。その内容を読むと、「現天守の価値」や「天守台石垣の保全と安全対策」について、昨年12月25日市議会に提出された「案」から大幅な加筆がされています。この間、文化庁とのやり取りで、一つは、「戦後都市文化の象徴であるRC(SRC)造天守を解体するにはなお議論を尽くす必要がある」もう一つ「天守解体及び木造天守建築時における、天守台石垣に対する影響」などが意見として出されその回答が名古屋市に求められています。その回答として、「現天守の価値」を記述していると思われます。5点ほどに整理しています。1点目に、戦後復興の象徴として名古屋のシンボルとしての役割がある。2点目に、「市民の機運—熱意—の高まりにより再建された」。3点目に、豊富な史資料に基づく外観「復元」で、その「精度—精密さ—は、他の城郭には見られない名古屋城の特徴であると位置づけることができる」。4点目に、鉄骨鉄筋コンクリート造建築物としての価値として、「外観は焼失前の天守閣と寸分も違わぬ姿に復元されるなど、当時の建築技術の水準を表わすものとしても現天守は評価できる。」「内部についても、2つのらせん階段や人造大理石の柱など、近代建築技術の粋を集めた造作が施され、『モダニズム建築』としても文化財としての価値を今日有するものと評価されている。」「二度と焼失することのないようにという願いも込められていたのである」と記述しています。5点目に、博物館としての機能と活用があげられています。

そこで質問します。これだけ価値のある現天守を解体していいのでしょうか。市民の思い、文化財としても残す選択肢を考えるべきではないでしょうか。

現天守閣の価値を超える木造復元の意義を丁寧に説明し、木造とし検討を進める（観光文化交流局長）

【観光文化交流局長】保存活用計画において「現天守閣の価値を超える木造復元の意義を丁寧に説明することを前提として、整備方針は木造とし検討を進める」といたしまして、天守閣の木造復元を進めているところです。

ご指摘の通り、現天守閣には、戦後の復興期に、市民の機運の盛り上がりによ

って再建された名古屋のシンボルであることなど、大きな価値がありますので、現在の天守閣を解体するにあたっては、VR や映像など、様々な方法で記録を作成し、その価値を広く発信して、後世へとつないでまいりたいと考えております

3、まず特別史跡の石垣を保全修復すべき

【江上議員】第3に、特別史跡の本物である石垣保全・修復についてです。

文化庁から回答を求められている石垣問題についてです。石垣について、有識者から、天守台北側のふくらみ、ハラミと言っているようですが、「約100センチ孕みだし」と記述されています。7月13日の石垣部会で有識者から、内部が空洞の可能性があり「危機的な状況」「深刻」といわれています。「一般論として、復元建物を整備するにあたり石垣の保全を後回しにすることはない」とも指摘されています。石垣保全・修復が先と言っているのです。しかし、名古屋市の計画では、天守は、石垣に負荷をかけないから、石垣の保全、修復は、木造完成後9年間で行う計画になっています。

そこで質問します。現天守解体を考える前に、特別史跡である石垣の保全修復を先に進めるのが当然ではありませんか。回答を求めます。

石垣の修復につきましては、詳細調査を進め、その調査成果に基づいて、石垣の現況を把握したうえで保存方針を立て、適切な対応を行ってまいります。(観光文化交流局長)

【観光文化交流局長】昨年より行ってまいりました調査結果を取りまとめて報告した本年7月13日の石垣部会では、天守台石垣北面が強く孕み出しており、きわめて危険な状態であることが指摘されました。石垣の修復につきましては、詳細調査を進め、その調査成果に基づいて、石垣の現況を把握したうえで保存方針を立て、適切な対応を行ってまいります。

4、最上階への階段を1か所とする現計画では、安全性に問題があり入場制限が必要になるのでは

【江上議員】第4に、天守最上階への階段についてです。

7月19日の天守閣部会の有識者会議では、災害時の避難について提案されました。現在の竹中工務店提案では、「4～5層も木造階段を追加し、各層すべて2か所ずつの階段設置をすることで、昇り・降りの一方向観覧者ルートを実現し、観覧経路のボトルネックをなくします」という案がありました。ところが、今回の提案では、4～5層は一か所の階段だけで、追加階段計画はない、としています。最上階の5層は、展望階となります。最も多くの人を訪れたいと思っている階です。その層の階段は、幅1m50センチで45度程度の角度で昇り降りするというものです。しかし、1か所になれば、人の流れは止まり、入場者を制限することになるのではないのでしょうか。また、入場制限をすることになりますから入場者数も想定より少なくなるのではないのでしょうか。

そこで質問します。最上層への階段を1か所にするることによる観覧者の安全や、入場制限の必要性がでてくるのではないのでしょうか。どう考えているのでしょうか。お答えください。

管理運営面の工夫で対応する（観光文化交流局長）

【観光文化交流局長】本市の現計画では史実に忠実な復元とするため、最上階への階段を1か所としておりますが、管理運営面の工夫により、安全面を確保すると共に、出来る限り入場制限をせず、多くの方に観覧いただけるよう努めてまいりたいと考えております。

2022年完成の天守閣木造化にこだわるな

【江上議員】有識者との「認識の一致をみていない」点について、有識者は石垣保全が最優先に、つまり、現天守解体前に石垣保全という私の理解を局長は、否定しませんでした。有識者と市が認識を一致するのは簡単ではないと、名古屋市は認識しているのではないですか。来年5月の文化審議会での「許可」も難しいと明言すべきです。これが言えないのはなぜか。2022年木造化完成にこだわっているからではありませんか。河村市長に質問します。

日本共産党市議団は、8月から市政アンケートを行っています。現時点で1万件ほど返信があり、そのうち1200件について集計しました。「名古屋城天守閣

の今後のあり方について、どうお考えですか。」に対し、市長提案の「2022年完成目標で木造化する27%」、「いったん立ち止まり、改めて検討する32%」「耐震補強などを行い木造化は行わない27%」、で市民の意見は分かれています。市長がこだわっている「2022年完成」に市民合意はありません。

石垣保全修復が第一といわない。現天守の「大きな価値」があると市は認めているのに解体しようとする。計画する木造天守の安全性、エレベーター問題もあります。2022年完成の天守閣木造化にこだわるのが、すべての問題の原因となっています。いったん立ち止まって市民の声を聞くために計画を見直すことを求めます。市長お答えください。

見直すつもりはまったくない（河村市長）

【河村市長】私は市長選挙で公約に掲げておりました、私でない方の方はストップ木造化とポスターに大々的に書いておられまして、あのような結果になりました、まあ一回河村さんが頑張ってちょっと、こういう風になったのがまず一つ。

もう一つは議会でちゃんと議決をいただいております、これは私に対する一つの命令でございますので、それに従って実行していかなければいけない。

それと、ご承知のようにIS値が0.14という非常に危険な建物でございますので、今のコンクリートの名古屋城はですね。5大都市のあらゆる公共建築物ですね、これ誇張じゃないですよ。あらゆる公共建築物の中で確か今一番低いと。それより低かったのが大須にあった中公設ですけどもうすでに取り壊しまして。本当に危険極まりない建物になっております。残念ながら。そういう事でございますので早く解体する必要があると。

僕の考えでは下で工事やっているひとも本当に危ない状況だと。大阪で地震がありましてブロック塀が壊れてきて亡くなられたということでございますけれど。今度はコンクリートだけでなく、下から行きますと50何mありますけれど、一番下の一階は瓦ですので、それが落ちてきたりする可能性も十分あるという事もあります。

それとやっぱり国宝一号として名古屋の空にずっと333年間輝いてきたこのお城を、もう一回凶面があることから本物に復元して、あと千年残していくことは私どもの今名古屋に生きる人間の使命だと思っておりますので、見直すつもりはまったくありません。

市民の声を聞くためにいったん立ち止まり、計画を見直せ

【江上議員】耐震化問題は2009年に分かっていたことであって、市がやってきていない、河村市長になってからもとっくに分かっていた、そういう問題である事を指摘しておきます。

できないことはできないと市民に明らかにすることも市長の責任です。

505億円もの事業が、この3か月間、市民や議会は、事業がどうなっているか知らされていません。市民の置き去りの事業は、見直すべきです。

名古屋へ人を呼び寄せるための観光資源としての名古屋城でなく、文化財としての価値がある名古屋城をどう保存するか問われております。文化財保護より観光という考え方を改めることです。

2022年完成の天守閣木造化は中止し、いったん立ち止まって市民の声を聞け。そのために計画を見直すことを求めて質問を終わります。